

若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究

このたび、下記の医学系研究を、日本産科婦人科学会倫理委員会臨床研究審査小委員会の承認ならびに理事長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施いたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善をつくします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨をお申し出くださいますようお願いいたします。

1. 対象となる方

2009年1月1日より2013年12月31日までの間に、子宮体がんに対し妊孕性温存を目的とした初回治療を受けた方

2. 研究課題名

若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究

3. 研究実施機関

久留米大学産婦人科および日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設

4. 本研究の意義、目的、方法

子宮体がんの標準治療は手術による子宮摘出ですが、妊娠を強く望む若い女性で子宮内膜に原局していると思われる高分化型類内膜癌、および子宮内膜異型増殖症（類内膜上皮内腫瘍）においては、子宮を切除せず黄体ホルモンによる子宮温存治療も行われる場合があります。しかしながら、本邦における若年子宮体がんの子宮（妊孕性）温存療法の実態についての詳細は不明です。本研究では、久留米大学産婦人科を研究事務局として、日本産科婦人科学会の婦人科腫瘍登録を行っている施設を対象に診療内容を調査し、治療の効果やその後の管理の方法、温存治療の本来の目的である、その後の妊娠についてなど多くの情報を集めます。

全国規模のかつてない多数例の情報の集積により、治療適応の拡大の可能性を探ると同時に、安易な温存治療がなされていないかどうかを検証し、治療の質の担保と安全な普及についての提言を行うことを本研究の目的としています。研究の成果は学会発表や論文として公開されますし、参加施設および日本産科婦人科学会のホームページで見ることができます。

5. 協力をお願いする内容

参加施設で若年子宮体がん妊孕性温存治療を受けられた患者さんの臨床データを集めます。特に新たに患者さんにご提供いただくものではありません。

6. 本研究の実施期間

研究実施許可日から2019年3月31日

7. プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で参加施設から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。

8. 本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡ください。

研究代表者：

久留米大学産婦人科 教授 牛嶋 公生

TEL:0942-31-7573 FAX:0942-35-0238

当院の問い合わせ先：

済生会福岡総合病院 産婦人科 部長 西 大輔

TEL:092-771-8151 FAX:092-716-0185